日本経済新聞

発熱するベルトコンベヤー

太陽フロロ開発 乾燥工程など向け

耐熱シートなどを手掛ける太陽フロロ（藤沢市、大久保登一社長）はベルト部分が発熱するベルトコンベヤーを開発した。工場の加熱・乾燥工程でヒーターなど外付けの熱源が不要となる。同社によるとベルト部分を発熱したまま回す装置の製品化は珍しいといい、フィルムや電子部品、食品工場での需要を見込む。

ベルト部分に使う「IRTFシート」はフッ素樹脂とカーボンの混合液をガラス繊維状のシートに染み込ませたもの。電流の大きさによってセ氏40～260度に加熱できる。ベルトを回す駆動装置を改良することで、発熱したままベルトを回すことを可能にした。ベルトの温度を50度に設定し24時間使った場合でも電気料金は1円弱に抑えられるという。

フィルム製造や電子部品のコーティングで必要な乾燥工程はヒーターなどの外付けの熱源を設置することが多いという。同社のコンベヤーを利用すると外部の熱源が不要となり、初期投資を抑制できる。

同製品の年間の売上高目標は5000万円。フィルムや電子部品工場のほか、食品工場などの需要も開拓する。